

# チャノキイロアザミウマ情報 第1号

平成21年5月8日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 1 発生のピーク

JPP-NETを利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月14日から5月21日となりました(表1、図1)。本年は3月から4月にかけて気温が平年より高く推移しており、チャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク時期は平年より9日程度早い(昨年より1日ほど遅い)と予想されます。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日 (JPP-NET)

	愛西	東海	南知多	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	稲武
第1世代	5/19	5/14	5/21	5/14	5/19	5/18	5/16	5/18	5/19	6/13
第2世代	6/16	6/12	6/20	6/11	6/18	6/16	6/14	6/16	6/17	7/12
第3世代	7/08	7/04	7/13	7/04	7/10	7/09	7/06	7/08	7/10	8/04

各地の気温は5月6日までは実測値を、それ以降は平年値を入れて計算しています。



図1 第1世代成虫の発生ピーク予測日

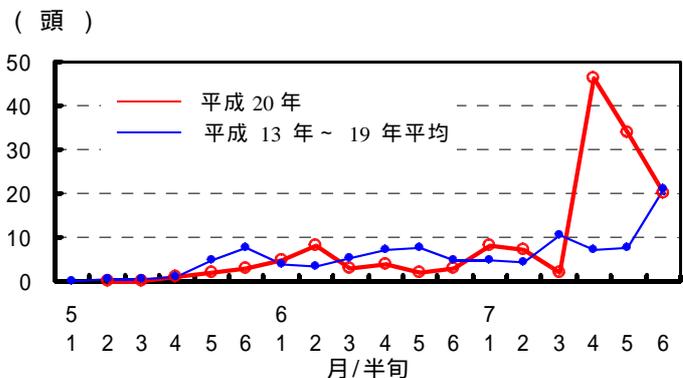


図2 粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの成虫誘殺数(東浦町・ブドウ園)

## 2 防除

ブドウでは平年5月上旬頃から成虫の飛来があり(図2)、5月下旬から6月上旬に幼虫の発生が見られます。その後7月から8月には成虫数が急激に増加します。カキでは開花期頃から成虫の飛来が多くなり、収穫期まで加害が続きます。

チャノキイロアザミウマ防除は、初期発生を抑えることが特に重要です。防除は発生ピーク時の薬剤散布が最も効果的とされていますので、例年、発生の多いほ場では、表1および図1から第1世代成虫の発生ピーク日を予測し、薬剤防除を実施しましょう(表2)。

表2 チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤と使用基準

作物	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数/使用回数
ブドウ	オルトラン水和剤	1,500~2,000	30日/2回
	パダンS G水溶剤	1,500	21日/5回
	コテツフロアブル	2,000~4,000	14日/2回
	アーデント水和剤	1,000	7日/4回
	ダントツ水溶剤	2,000~4,000	前日/3回
カキ	オルトラン水和剤	1,000~1,500	45日/2回
	コテツフロアブル	2,000~4,000	14日/2回
	モスピラン水溶剤	2,000~4,000	7日/3回
	アーデント水和剤	1,000	7日/3回

